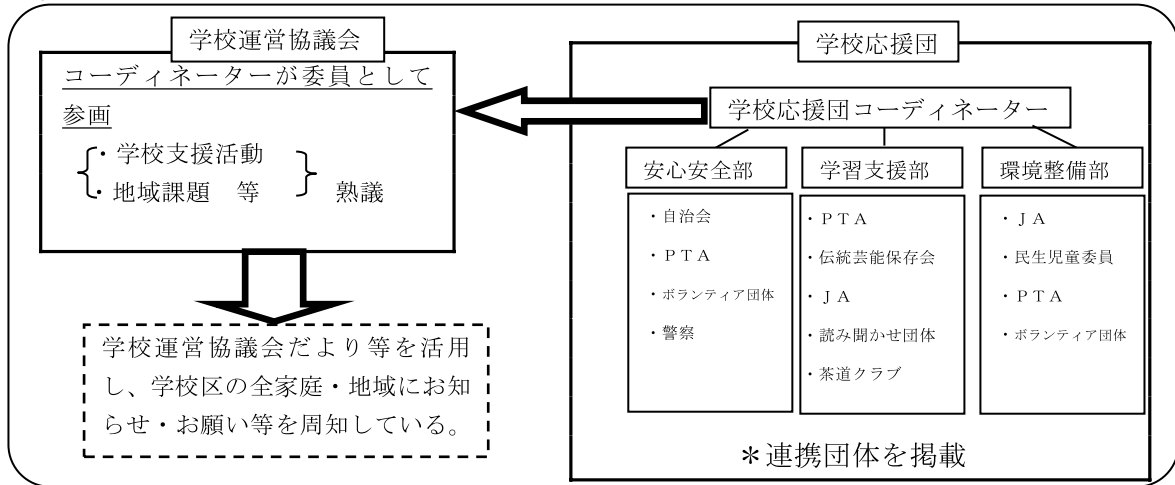


深谷市立本郷小学校の実践

- 1 児童数・学級数 218名・10学級（特別支援学級2学級含む）
 2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	元PTA会長
行っている業務	○学校（担当者）との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○地域の様々な団体・組織との連絡・調整

4 充実・発展に向けた工夫

(1) 【コーディネート上の工夫】

本校は、元中学校の跡地にある関係から、敷地面積が深谷市内の小学校の中では一番の広さであり、敷地内に樹木も多く、その管理が大変である。そこで、学校応援団の皆様へ、ほぼ毎月、樹木の剪定、除草作業等の環境整備を中心に活動をお願いしている。

(2) 【目標の共有】

学校運営協議会とともに「地域総掛かり」の教育の実現を目指し、日々活動をしている。

5 特徴的な活動内容

学校裏の森を学校応援団コーディネーターの経営する会社が切り開き、そこで、学校公開日の催しの一環として、「森のコンサート」を実施した。当日は、児童が日頃の活動を披露したり、児童・保護者・地域の方で“校歌”を斉唱したりした。また、コンサート終了後、ボランティア団体の方々が、校庭で豚汁を振舞ってくださった。



【森のコンサート】

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

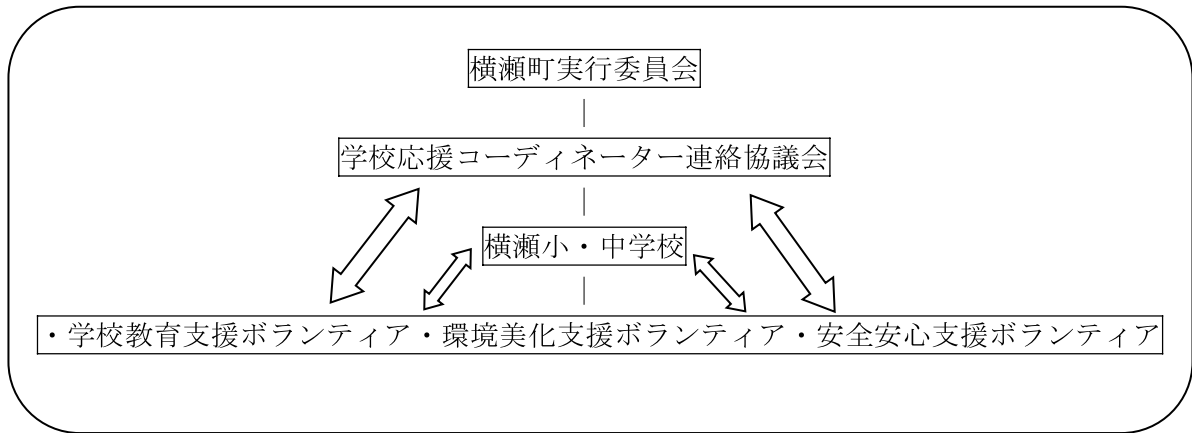
- ・森のコンサートにおいて、日頃の学習活動の一環を見ていただくことができ、学校の活動を地域の方に知っていただく良い機会となった。特に校歌を保護者、地域の方も巻き込んで斉唱することで、地域の方とより多く一体感を感じることができた。
- ・ボランティアの方々に豚汁を振舞っていただいたことに対して、子供たちが地域の方に感謝の気持ちを伝え、地域愛を深めることができた。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・子供たちが大変喜んでくれたので、企画してよかったと思った。
- ・これからも、学校応援団として、できることはなるべく参加、協力していきたいと思う。

横瀬町立横瀬小学校の実践

- 1 児童数・学級数 392名・16学級
 2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	7名
担い手	公民館職員（1）、主任児童委員（2）、社会福祉協議会（1）、教育委員会職員（2）、元PTA役員（1）
行っている業務	○学校及び担当者との連絡・調整 ○研修会等の企画・運営 ○新たなボランティアの募集活動

4 充実・発展に向けた工夫

- (1) 小・中学校の各支援ボランティア名簿の管理、実行委員会や学校応援コーディネーター連絡協議会の運営等を町（教育委員会）が主体となって行い、各学校の負担を軽減するとともに、町ぐるみで学校応援団事業が進んでいる。
- (2) 学校公開日に合わせて、学校応援団の支援ボランティアの方との教育活動を計画し、保護者や地域の方に広く周知するように工夫している。
- (3) 学校応援団ボランティア研修会として、夏季休業中に講演会を実施している。「子供の成長を支える講演会」として広く町民にも参加を呼びかけ、学校応援団の活動を知ってもらう機会ともしている。

5 特徴的な活動内容

小学校第5学年総合的な学習の時間において、米作り体験に取り組んでいる。学校応援団の米作り名人4名が中心となり、経験に基づく指導や、長期的な水の管理など、教職員だけでは指導しきれない部分までご指導いただいている。また、活動を通じて子供たちと地域とのつながりも深まっている。



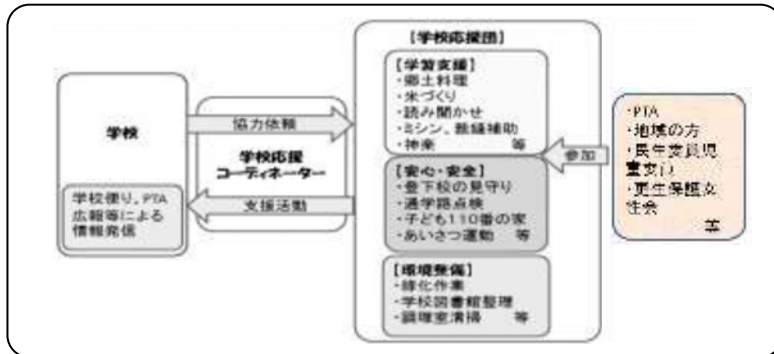
【米作り体験】

6 成果と地域の方の声

- ・学校公開日等に支援ボランティアを活用した教育活動を実施することで、地域と一体となった教育活動を地域住民や保護者に広く知らせることができた。
- ・「毎年行くとたびに子供たちからパワーをもらっています。続けられる限り、私も元気に頑張っていきたいと思います。」

小鹿野町立両神小学校の実践

- 1 児童数・学級数 97名・8学級
 2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	元PTA関係者
行っている業務	<ul style="list-style-type: none"> ○学校（担当者）との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○地域の様々な団体・組織との連絡・調整 ○新たなボランティアの募集

4 充実・発展に向けた工夫

- (1) 【コーディネート機能の充実】本校における学校応援団は、以下のような流れで活動している。①年度当初、学校応援コーディネーターが地域の方や保護者へ向けてボランティアの内容説明を行い、参加を呼びかける。②参加希望者を集約し、学校応援団として登録する。③各ボランティアの代表者が登録者に働きかけ、学校支援活動を行う。④年度末に学校応援団ボランティアの方々を対象としたアンケートを実施する。結果を受けて、学校と学校応援コーディネーターで、次年度のボランティア内容について検討を行う。
- (2) 【多様な活動、継続的な活動にしていく上での工夫】本校に対する地域の方の関心は高く、学校応援コーディネーター以外にも、中心となって積極的に連絡・調整を行ってくださる方がいる。そのため、ボランティアを活用した教育活動を年間指導計画に位置づけ、継続した活動が可能となっている。

5 特徴的な活動内容

【総合的な学習の時間：柏沢神楽に挑戦！】

第5、6学年の総合的な学習の時間において神楽の学習を行っている。地域の方（柏沢神楽保存会）の協力のもと、神楽の歴史を学び、太鼓、笛、舞の練習を重ね、地域の祭り等でその成果を発表している。また、授業参観では地域の方もお招きして発表会を行っている。柏沢神楽の取組は今年で14年目を迎え、児童の神楽発表は、地域の方々にとって大変楽しみなものになっている。

学習を終えた児童は、「両神の伝統芸能を体験できて、良い経験になった。」「地域の文化や活動をこれからも守って保存したいと思いました。」「自分の生まれた地域にこのような伝統文化があってとてもうれしかったです。」「今年は（通常の発表会に加えて）、郷土芸能祭での発表もあったので、とてもやりがいを感じました。」等の感想を記していた。

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

様々な学習場面や登下校の見守り等、地域の方と交流する中で、児童は自分たちが地域と深く関わっていることを実感し、たくさんの支援を受けていることへの感謝の気持ちや、郷土を大切に思う気持ちをもつことができた。また、教師の力だけでは実現できない貴重な体験を通して、学習効果の高まりが見られた。何よりも、学校と家庭・地域との連携が深まり、地域の方々の支援のもと、地域に根ざした教育活動が展開された。

(2) 学校応援コーディネーターさんの声

- 現在の保護者だけでなく、OBで参加してくださる方も多い。小規模校ではあるが、たくさんの登録者がいるので、学校応援団として充実していると感じている。
- 「地域で子供たちを見ていく」という意識が高く、様々な意見を出してくれる方が多い。そのため、地域目線で質の高い活動が実現していると思う。